くあるように思われる。

（法学部教授）

大学史編纂に関与して

編集委員　山本千秋

名古屋大学史編集委員会の第一回は昭和六〇年二月一四日（木）に開催され、編集についての規程作りから始まった。委員会の開催が重なるにつれて、未経験な私には歴史編集が大変であることを知った。と同時に、非常に勉強にもなった。歴史を編纂することは、資料収集から始まるが過去の証拠を集めることであって大変な仕事（作業）となる。参考のために他で出版されている〝歴史書〟を読んで感じたことは〝良い歴史書〟ほど、多くの資料をもとに苦心されているようであった。このことから思うに、いま、完成した『部局史編』、『通史編』そして『写真集』を並べて見るとき、加藤総長以下、編集室員の方々を先頭に学内の人々や大学と関係のあった先輩諸氏が結集した成果であったことをしみじみと感じ、良い大学史が完成したと思っている。

さて、五十年史と言っても、その以前もあって本年（一九九六年）からさかのぼること一二五年（一八七一年）が名古屋大学の発祥の時であった。（稿本　名古屋大学医学部百十五年史　参照）今回の五十年史のうち医療技術短期大学部（医療短大部）は創設が昭和五三年（一九七八年）と比較的に新しい。しかし、以前は医学部の附設学校として医療技術者の養成が行われており、看護学校と助産婦学校は明治二七年に設置されている。私は医療技術

者養成に関する部分の担当であったから、資料収集は附設学校の発祥までさかのぼる必要があった。そこで、私は資料収集について附設学校と医療短大部に分けた。そして、さらに附設学校は設置が明治時代の看護学校・助産婦学校と設置が昭和二〇年後（終戦後）の診療エックス線技師学校・衛生検査技師学校に分けた。

附設の各学校は養成する学生数が一学年二〇人又は四〇人と少数であったが、教務的には大変整理がよくできていた。さらに、学校と学友会との連携も密接に行われていたことから資料収集が大変に楽であった。即ち、上記の四学校は医療短大部創設と同時に閉校し、このときに各学校の学友会が記念誌を制作していたからである。名古屋大学では医療を支える職種の教育がどのように行われて来たかを知るのに十分であった。しかし、看護学校と助産婦学校については、さらに知りたい箇所が昭和二〇年～三五年にあり、当時には名大病院勤務でその後に共済会館で勤務されていた事務長を訪問し、古い記録を頂き聞き取りもさせて頂いた。また、診療エックス線技師学校と衛生検査技師学校については、当時の放射線科技師長（現在御自宅）を訪問して聞き取りをさせて頂いた。学校は少ない予算であり、不足は病院が負担して（制度としては医学部附設の学校であったが）医療技術者の教育に努力されたことを伺った。

医療短大部は創設して一八年（一九九六年）であるから、今後のためにはどのような記録にしたら良いかを考えた。また、写真の資料はどのようなものを収集するか医療短大部内の大学編集委員会で検討し、多くの中から編集室で選別してもらうことにした。分担の執筆には部長以下委員（短大部には短大の大学史編集委員会を編成していた。）の先生方に短い期間で協力が得られて『部局編』が完成した。

今回の委員活動で特に感じたことは、歴史編纂には聞き取り資料が重要であり、聞き取るために記録資料を全て記憶してから、聞き取りをしたことが良かったと思う。また、医療短大部では委員をはじめとして教職員の方々が

精力的に協力して頂き編纂が完了したことにまとめ役の委員として感謝している。

尚、医療短大部として収集した資料は全てが掲載されたわけでわない。未掲載のものは平成八年四月発足予定の「名古屋大学史資料室」に整理、保存されることになっているので御利用いただきたい。

最後に、この名古屋大学五十年史完成と共に三〇年間お世話になった名古屋大学を定年で去ることになり感慨深いものがある。

（医療技術短期大学部教授）

回顧

元編集委員　片岡　順

五〇年史の農学部編さん委員を引き受けるとき、気軽く考えていた。それは数年前に農学部三〇年史が編さんされていたからである。農学部三〇年史は昭和五一年、各学科から選ばれた委員によって委員会が構成され、山本良三教授が委員長に互選された。そして、資料収集は精力的に進められた。

戦後開設された農学部は、大きく三つの時期にわけられる。創設期、安城時代、そして東山統合時代である。幸いこれらの時期を過ごされた人達がご健在であったために、私の知らなかったエピソードが手記として沢山寄せられた。

五〇年史の編さんにあたり、農学部の三〇年史を再度読んでゆくうちに、当初の気軽な気持ちはだんだんと消え